

牧阿佐美バレエ団60周年記念 若き才能が描く バレエダンサー

【会期】 5月11日(水)～17日(火)
【会場】 西武池袋本店6階(中央B8)
＝西武アート・フォーラム
※最終日5月17日(火)は同会場のみ
午後4時閉場
豊島区南池袋1-28-1
お問い合わせ03(5949)5276 (直通電話)



牧阿佐美バレエ団のゲネプロを見ながら取材した5人の画家達。右から3人目が牧阿佐美。文京シビックホールにて。

2月某日、牧阿佐美バレエ団の練習スタジオを訪ねると、ダンサーを目前に画家・中島健太がスケッチする鉛筆を走らせていた。

「緊張感の中で生まれる美しさだからこそ本当の強さを感じるし、嘘がない。積み重ねられている歴史の濃さを実感します」と、中島は語った。

バレエダンサーを描いた画家といえば、ドガを筆頭に古今東西大勢いる。具象絵画を描く者にとって、ダンサーの肉体が結晶化させることは、限らない探求心の対象となる。なぜならダンサーを描くことは、人間の愛(エロス)や感情、生命の尊厳の表現に繋がるからである。

約2年にわたり、牧阿佐美バレエ団のリハール、ゲネプロ、公演を観察、取材することが許可された気鋭の画家5名と特別出品のトッド・ハインデル。最上級のモチーフを与えられた彼らにとって、今回の経験は自身の可能性を引き出し、画家としてステップアップとなる貴重な機会となったはずだ。素材も表現方法も異なる各人が、バレエ芸術への賛美の気持ちをもとに表現するだろうか。新作約25点が一堂に展覧されるとあって、美術ファンには必見だ。

以下、同展に寄せられたそれぞれのコメントを紹介する。

「バレエのどこにも美しさと感動を呼び起こされるのだからと考えるながら見ていて、ダンサーが全身を使って空間に大きな絵を描くように動いていくさまに心惹かれました。瞬間にして移り変わるその動きの記憶を描いてみたいと思います」

「レッスンでは限界と対峙して静かに戦う姿を、舞台上では限界をこえた心身の表現を目の当たりにします。彼らダンサーの魂あふれる芸術作品を、自分の絵画作品に落とし込むことのできるのだろうか。それは私にとって大きな壁だと感じました。表舞台と裏側とで表現に励むダンサーから感じたエネルギーを、自分なりにうけとめて私なりの『言語』でそれを表現したいと思いました」

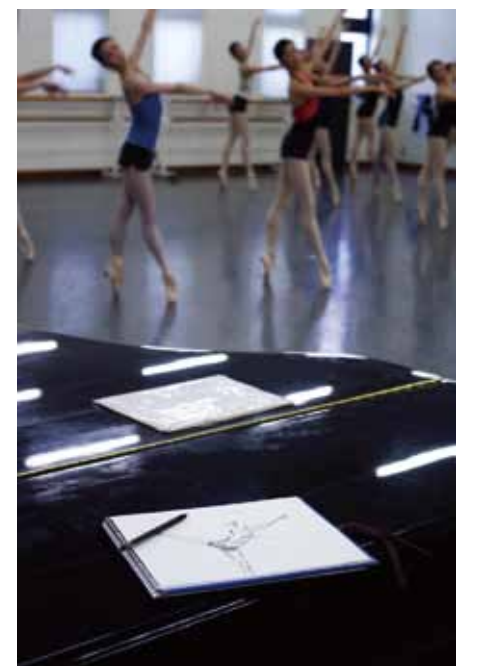
(大河原典子)

「これまで日本画で平面的な表現を行ってきた中で、どのようにバレエダンサーを表現するべきか、また何を描くべきかで大変悩みました。実際の練習や舞台だけでなく、ダンサーの方と直接お話しさせていただいたことをヒントにしていきたいと考えています」

(古河原泉)

「初めて練習スタジオを訪ねた時、スタジオの空気の緊張感に驚いたことを覚えています。時間的にも物理的にも、多くの制約がある中で、それでも自由な表現者であるとうとするバレエダンサーの姿は感動という言葉だけでは足りない、もっと深く複雑な感情を僕に与えてくれました」

(染谷香理)



レッスン場での中島のスケッチ。

「その底の深さにさえまだ気が付けないような浅瀬から目を凝らして奥を覗き見るように、この2年間、舞台や稽古を取材させて頂きました。ダンサー自身の作り込まれた美しさ、迫力、併せ持つ繊細さ、それらをただ今の私の眼で見えた通り、過不足無く描き留めること。まずそこから始めることにしました」

(山本大貴)

「この機会を与えてくれた牧阿佐美先生に心より感謝申し上げます。牧阿佐美バレエ団のリハールスタディオに入った瞬間、英国ロイヤルバレエ団を父と共に訪れた思い出が浮かびました。そしてダンサー達の美しさに興奮し、同時にこのモチーフを自分で描けるのかという恐怖心が襲ってきました。父の影響を排除することはできませんが、父とは違う私の特徴をどうしたら画面に表現できるか挑戦していきます」

(トッド・ハインデル)

大河原典子

おおかわら・のりこ 1976年東京都生まれ。2004年東京藝術大学大学院博士課程修了、野村賞受賞。13年第1回桜花賞奨励賞(郷さくら美術館東京)、15年法相宗大本山薬師寺「吉祥天画像」奉納。現在日本美術院院友、鎌倉女子大学専任講師。



「軌跡」72×91cm



こがはら・いずみ 1978年栃木県生まれ。2000年宇都宮大学教育学部美術科卒業。03年光風会展初入選(以降毎年入選)。04年白展初入選(以降入選7回)。現在無所属。

古河原泉



「背を背に」65.2×53.0cm

染谷香理

そめや・かおり 1977年島根県生まれ。2002年東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復日本画修士課程修了。07年有芽の会、法務大臣賞受賞。13年第68回春の院展、外務大臣賞・奨励賞受賞。現在日本美術院特待、東京藝術大学大学院教育研究助手。



「Blue Bird」72×91cm

中島健太

なかしま・けんた 1984年東京都生まれ。2006年第82回白日会展初入選。08年武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業。09年第41回白展初入選。特選受賞。13年東京高輪会特集作家。14年改組第1回新日展特選受賞。現在白日会会員、日展準会員。



「THE DEEP SEA」50×60cm

特別出品



1966年アトランタ生まれ。父の影響で7歳の頃から絵を描く。映画好きの父(ロバート・ハインデル)とよく映画を見に行き、映画への興味を深める。大学卒業後、ジョージ・ルーカスのIndustrial Light & Magic(ILM)に勤務する。[oodzila]の仕事で最後にハリウッドを去った後、98年から本格的に画業を開始。現在ニューヨーク、アムステルダムなどの画廊で個展を開催。

トッド・ハインデル



「Kika in Blue&Gold」70×53cm

山本大貴



やまもと・たかき 1982年千葉県生まれ。2007年武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。卒業制作優秀賞受賞。第83回白日会展初入選。白日会受賞。10年第86回白日会展、富田賞受賞。11年昭和三展優秀賞受賞。14年東京高輪会特集作家。現在白日会会員。



「アティチュード」91×65cm